



あゆみらいん 第270号

2022年は

壬寅

(みずのえ・とら)

2022年は十干が「壬(みずのえ)」、十二支が「寅」の年にあたるので、干支は「壬寅(みずのえとら)」です。「壬」は「妊に通じ、陽気を下に妊(はら)む」、「寅」は「蟻(ミミズ)に通じ、春の草木が生ずる」という意味があります。そのため「壬寅(みずのえとら)」は厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎となるイメージです。

《干支とは》

干支は「甲(きのえ)・乙(きのと)・丙(ひのえ)・丁(ひのと)・戊(つちのえ)・己(つちのと)・庚(かのえ)・辛(かのと)・壬(みずのえ)・癸(みずのと)」の「十干(じっかん)」と、「子(ね)・丑(うし)・寅(とら)・卯(う)・辰(たつ)・巳(み)・午(うま)・未(ひつじ)・申(さる)・酉(とり)・戌(いぬ)・亥(い)」の「十二支」を組み合わせたものを指します。つまり十干の「干」と十二支の「支」で「干支」となります。

十二支についてはよく知られていますが「十干」はご存知ない方も多いため。「十干」はもともと、甲、乙、丙、丁…と、日を順に10日ごとのまとまりで数えるための呼び名でした。10日ごとに、「一旬(いちじゅん)」と呼び、3つの旬(上旬、中旬、下旬)で1ヶ月になるとして広く使われていました。古代中国では、万物はすべて「陰」と「陽」の2つの要素に分けられるとする「陰陽説(いんようせつ)」と、すべて「木」、「火」、「土」、「金」、「水」の5つの要素からなるとする「五行説(ごぎょうせつ)」という思想がありました。これらを組み合わせて「陰陽五行説」といい、やがて陰陽五行説を「十干」に当てはめるようになりました。一方で十二支は、もともと12か月の順を表す呼び名に、12種の動物を当てはめるようになったとされています。

「干支」は「十干」と「十二支」が組み合わせざり60通り、ついで60年で一巡します。これは生まれてから還暦まで毎年干支が異なることを指します。



《十二支に関する有名なはなし》

とある年末、神様が動物たちに対して、元旦に自分のところへ訪れた1番から12番目までの動物を1年ずつ交代でその年の大将にするといいました。これを聞いた動物たちは、さまざまな計画を立てていましたが、猫だけはその話を聞き逃していました。

猫は、いつ神様の元へ行けば良いのか分からないためねずみに聞きましたが、ねずみとしては一人でもライバルを減らしたいという思いから、嘘で元旦の次の日を伝えます。結果として猫は一日遅れで神様の元へ向かったものの、そのときにはほかの動物たちも神様もいなかったという話です。

ただ、これで干支が決まったわけではなく、正式には多くの方が馴染みやすいように動物を使って分かりやすく干支を割り振ったとされています。

《虎の慣用句やことわざ》

虎は「力」「権威」の象徴です。《虎の威を借る狐》は他人の権威をかさにきて威張り散らす小者。権力を持つ人を怒らせるようなことをするのは《虎の尾を踏む》といえます。

手放せない大切なもの、秘蔵の品を《虎の子》と言うのは、母虎が愛情深く、大切に子育てすることにちなんでいます。価値あるものを手に入れたいのであれば、《虎穴に入らずんば虎児を得ず》。

危険を冒す覚悟も必要です。虎は象の群れから逃れるため、竹やぶに身を潜めたとの言い伝えから、水墨画や屏風絵などで「虎と笹」はセットで描かれることが多いです。「ささ」と読むこともある「酒」と笹とを掛けて、酔っぱらうことを《虎になる》、泥酔している人を《大虎》と表現します。

文・武・竜・虎・豹・犬の六巻からなる古代中国の兵法書「六韜(りくとう)」の中でも、「虎韜の巻」に兵法の奥義が記されていたことから、秘伝書を《虎の巻》と呼びます。そこから転じて、講義などの種本や授業を理解するための参考書のようなものを指すこともあります。

《寅年の特徴と込められている意味》

虎は、毛皮の模様から前身が夜空に輝く星と考えられていた存在。『決断力と才知』の象徴としての意味もあり、縁起物としても親しまれています。

「寅」という字は「演」から来ていると言われています。「演じる＝人の前に立つ」という意味や「演(えん)」という字の語源の「延(えん)」から「延ばす」という意味を表しているそうです。例えば「演技」という言葉は、「技(わざ)を延ばす(人前で見せる)」という意味から出来たという説もあるのだとか。

このような「人の前に立つ」ことや「延ばす」という意味から、「寅年」は芽を出したものが「成長していく(見えてくる)」年やこれから成長する物事の「象徴が生まれる(始まる)」年と言われています。

寅年の人はどんな性格？

寅年の方は、以下のような性格をもっていると言われています。

- ・信念が強い
- ・勇敢
- ・正義感が強い
- ・チャレンジ精神が強い
- ・情熱的
- ・完璧主義
- ・単独行動を好む



何事にもたくましく挑んでいき、そのうえ一人でもへっちゃら…。いずれの特徴にも、意志の強さが表れていることから、寅年の方は「虎」のイメージ通りの性格と言えるでしょう。

反面、「1人で思い悩む」や「過度な大口をたたいてしまう」といった、マイナスな面もあります。寅年の方は、少しプライドが高くなりがち傾向にあるかもしれません。ときには、周囲に甘えたり、弱い部分を見せたりすることも必要でしょう。

寅(虎)にまつわることわざ実によくあります。一部をご紹介します。

騎虎(きこ)の勢い

勢いやはずみが付くと、途中では止められないことを指すとえ

虎の威を借る狐

強いものの力を借りて威張る小者を指すとえ

虎の尾を踏む

虎の尾を踏む 極めて危険であること。危険をおかすことのとえ

羊質虎皮(ようしつこひ)

見た目だけが立派だが、質が伴っていないことのとえ

他にも、もともと強いものがさらに強くなることを指す「虎に翼」など、ことわざや四字熟語では、強いものや立派なものの象徴として「虎」が使われることが多いようです。



誰でも簡単！ クッキングレシピ

おせちに飽きたら！



鶏だし白菜うどん

材料(2人分)

- ・冷凍うどん 2玉 (ゆでうどんでも可)
- ・鶏もも 90g
- ・白菜 200g
- ・人参 1/8本
- ・生しいたけ 2個
- ・薄揚げ 1/5枚
- ・白だし 大さじ4
- ・しょうゆ 小さじ2

作り方

1. 鶏肉は一口大に切る。人参は3cmの短冊切り、薄揚げと白菜2センチに切る。しいたけは軸とかさに分けてそれぞれスライスする
2. 700ccの水を鍋に入れ、鶏肉人参を加えて沸騰させ、炊く。
鶏肉に火が通ったら椎茸と薄揚げを加え白だし・しょうゆ・塩で味付けする。
- 3 白菜とうどんを入れて、白菜がしんなりしてきてうどんもほぐれれば出来上がり。



野菜と豚肉のあんかけご飯

材料(2人分)

- ご飯(温かいもの) 240g
- 豚肉(切り落とし) 100g
- 料理酒大さじ1/2
- にんじん 3cm
- しめじ(小) 1/2パック
- ねぎ 1/3本 白菜1枚
- ごま油大さじ1/2
- (A)かつおだし 1カップ
- しょうゆ 大さじ1と1/2
- 本みりん 大さじ1
- (B)水溶き片栗粉 大さじ1

作り方

1. 豚肉は食べやすく切り、酒を絡め、白菜は縦半分、横1cm幅に切る。にんじんは薄く半月切り、しめじは石づきを取ってほぐし、ねぎは小口切りにする。
2. フライパンにごま油を中火で熱し、豚肉とにんじん、しめじ、ねぎ、白菜の軸の順に炒め、油がまわったら(A)を加えて煮立て、白菜の葉を入れて蓋をして2~3分煮る。
3. (B)を混ぜて加え、とろみをつける。
4. 器にご飯をよそい、(3)を盛りつける。

大根・人参・ごぼうコンソメスープ

材料(2人分)

- ・大根 10cm位
- ・人参 1/3本位
- ・ゴボウ 10cm位
- ・水 600cc
- ・コンソメ 2個
- 胡椒・みりん・塩少々

作り方

1. 根菜を1cm角のサイコロに切る
2. ①をレンチンして、お好みの固さまでやわらかくする
3. 鍋に水を入れ②とコンソメを投入する



厚揚げのみぞれのせ

材料(2人分)

- ・厚揚げ 1/2枚
- ・大根 5cm
- ・しょうが少々
- ・青ねぎ 少々
- ・サラダ油少々
- ・ぽんず適量

作り方

1. 厚揚げはひと口大に切る。
2. 大根、しょうがはすりおろす。青ねぎは小口切りにする。
3. フライパンに油を熱し、厚揚げを転がしながら焼き、全面に焼き色をつけ、器に移して(2)のをのせ、ぽんずをかける。



キャーマン、ロシビ、より

《間違い探し問題》

笑顔の素敵な七福神のイラストを使って間違い探しをしてみましょう。下のイラスト A とイラスト B の違いを5カ所答えてください。七福神とは、大黒天、毘沙門天、恵比寿天、寿老人、福祿寿、弁財天、布袋尊の七つの神様です。

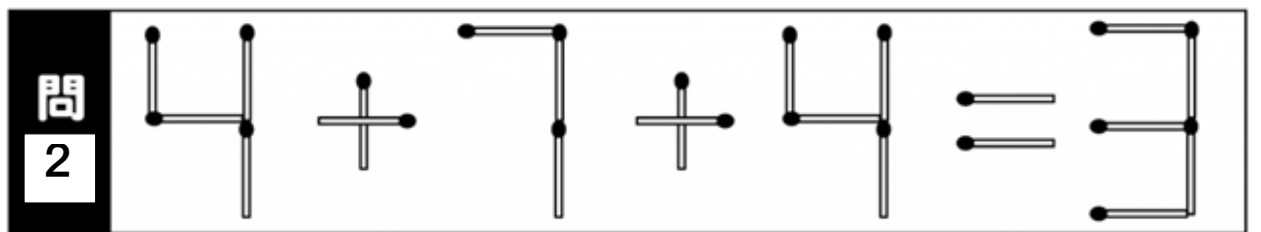
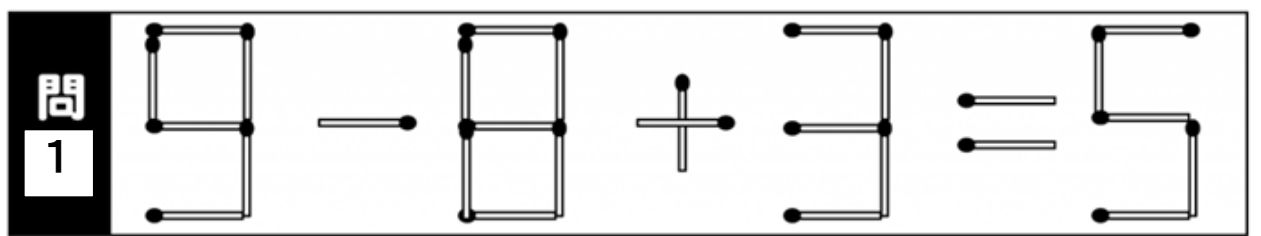


脳トレコーナー

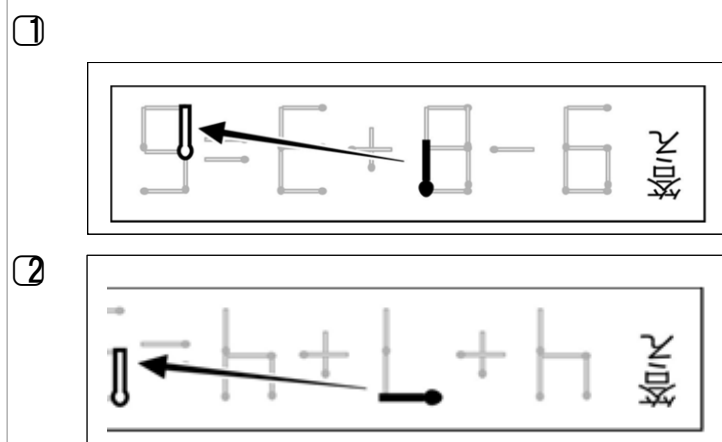


《マッチ棒クイズ》

マッチ棒を1本だけ動かして、問題の計算式が成り立つようにしてください。ただし、「=」の部分のマッチ棒は動かしてはいけません。数字も+-の部分も自由に動かせます。



マッチ棒クイズの答え



間違い探しの答え

